

あとがき

二〇〇一年、ワールドトレードセンターが崩れ落ちるニュースの画像を見て、恐ろしさとともに、報復の連鎖が想像されて不安でいっぱいになりました。そんな中で「バグダッド」の言葉が生まれてきました。友人や知人に手渡したり送ったりして読んでもらいました。すると、きどのりこさんが『マスコミ市民』を紹介して下さり、同誌に載せていただきました。それから暫くは、ほぼ毎月、書いたものを送り載せていただきました。そんな風にしたものをまとめて『コトノハヅル』という手作りの詩集にしました。

そしてある日、少女像のニュースを見て、それが「木槿の宮」という詩になりました。やはり『マスコミ市民』に載せていただき、勧めて下さる方があって『ふえみん』にも載せていただきました。その後、書いたものを、『虹日和』という手作りの詩集まとめ、その二つと、こぼれ落ちていたものを一緒にして、この詩集になりました。

私の言葉は、迷子になって堂々巡りをしたり、とっ散らかってしまったりで、とても詩(四)とは言えず、散(三)がやっとというほかはありません。よく言って散詩(3/4)というところ。視野の狭さ、認識の浅さ、それに勘違いしていることもありました(例えば、『ぺにろいやるのおにたいじ』は創作で昔話ではなかったし、「ジャララバード」という言葉を初めて聞いた時期は、財宝の発掘の話よりずっと後のことでした)。言葉を直せたところもありますが、その時感じたり考えたりしたことなので、そのままにしたところもあります。

そんな言葉を読んで、励まして下さった方々には、感謝の思いでいっぱいです。本当に有難うございました。

今回、幸運なことにあけび書房から出版していただけることになりました。深謝。